

学校便り

# まごころ

学校教育目標

まごころ込めて、よく学び、たくましく生きる児童の育成

- ・支え合って、仲良く活動する子
- ・よく聞き、よく考えて表現できる子
- ・めあてを決めて、自分いっぱいがんばる子

2月号 R6. 2.15 発行

西予市立田之筋小学校



## 「今を一生懸命生きる～念ずれば花開く～」

田之筋小学校長 堀内 良之

「立春」を過ぎ、暦の上では春を迎えたとはいえ、寒暖の差が大きく、まだまだ厳しい寒さを感じる日もあります。その一方、梅の蕾も膨らみ始め、間もなく春を迎える予感を感じる季節でもあります。梅の花は、厳しい寒さの中でじっと耐え、つぼみを膨らませ、春の花々に先駆けて花を咲かせます。その有様は、よく人生にたとえられます。人生には、苦しい時、辛い時、悲しい時など厳しい時が何度か訪れます。その厳しさに耐えてこそ、暖かくのどかな春がやってきます。

田之筋小学校の子どもたちも、その梅の花に習って、寒さやコロナ、インフルエンザなどの感染症に負けず、明るく元気なあいさつ、朝マラソンや補充学習、そして、来年度の児童会の企画委員を決める選挙等に頑張っています。

さて、皆さんは、「念ずれば花開く」という言葉を御存じでしょうか。この言葉は、まごころ11月号で紹介した「光る」という詩をつくった、愛媛県砥部町ゆかりの詩人、坂村真民（さかむら しんみん）さんの詩の一節に出てくる言葉です。

念ずれば花ひらく 苦しいとき 母がいつも口にしていた

このことばをわたしも いつのころからか となえるようになった

そうしてそのたびわたしの花がふしぎと ひとつひとつ ひらいていった

念

真民さんが、46歳のとき、片方の目が見えなくなり絶望の底にあったときに生まれた詩で「念ずれば花開く」という言葉は、母親が苦しい生活の中で自分を励ますために、念仏のようにいつも言っていた言葉だそうです。

この言葉は、ただ念じていれば、じっとお願いをしていれば、夢がかなうという意味ではありません。真民さんは、詩集「念ずれば 花開く」のあとがきに、「念ずるということは、前向きに生きようとするのであって、希望なのである。どん底に落ちてても、念じながら這い上がっていく不屈の魂である。」と書いています。この言葉の本当の意味は、何事も一生懸命に祈るように努力をすれば、自ずから道は開ける、夢や目標がかなう、という意味だと思います。前向きに生きるための「願いの詩」なのです。

「念」という字を分解すると、「今」と「心」になります。「念」とは「今の心」であり、「今、目の前にあることを一生懸命やること」を表しています。さらに、「念じる」という言葉には「実践する」という意味があります。「念ずれば、花開く」という言葉の裏には、「今」を大切に生きないと、花は開かないという意味があるのだと思います。逆に、「今」をいい加減に生きると、次の瞬間もいい加減なものとなり、いい加減な生活しか送れないことになってしまうのではないのでしょうか。

この寒い冬に、春を見据えて、今自分にできることを地道に粘り強く努力することは大切なことだと思います。「辛い」という文字に一画加えると、「幸」になります。暖かい春に胸を張って進学、進級ができますよう田之筋小学校みんな頑張っています。保護者、地域の皆様、御支援よろしく願いいたします。

幸